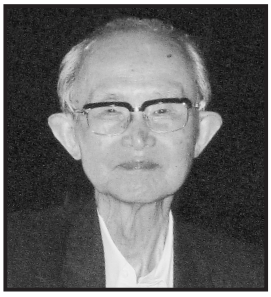
# 名 誉 会 員 追 悼



故　名誉会員　　田畑新太郎　君

社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、元日本鉄鋼協会副会長専務理事、田畑新太郎氏は、平成18年11月25日、ご逝去されました。享年93歳。ご逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は、昭和14年東京帝国大学工学部冶金学科卒業、同年商工省（後の通商産業省）に奉職、鉱山局製鉄課を振出に、重工業局製鉄課長、科学技術庁企画調整局企画課長、日本貿易振興会シンガポール所長、通商産業省鉱山局審議官を歴任された後、昭和37年11月から昭和56年4月まで社団法人日本鉄鋼協会専務理事、同年4月から9月まで日本鉄鋼協会副会長を務められました。その後、昭和56年9月から昭和62年9月まで日本科学技術情報センター理事長の職にありました。

氏は、商工省に入省以来、長らく鉄鋼行政に携わられ、我が国鉄鋼業の進歩発展、とりわけ新技術の開発、利用に心血を注ぎ、我が国鉄鋼業の発展に絶大なる貢献をされました。氏が鉄鋼行政に携われていた時期は、まさに第二次世界大戦後の復興、発展の途上にありました。壊滅的な状況にあった我が国鉄鋼業を復興発展させるため、当時、国策としての傾斜生産方式による鉄鋼復興政策の中で、進んだ米国の鉄鋼技術を率先採用し、我が国鉄鋼業の合理化を進める以外に適策はないという氏の卓越した信念、指導のもと、我が国鉄鋼業は累次にわたる設備合理化、新技術の採用に積極的に取り組み、短期間の内に今日の鉄鋼業の礎を築くことができました。特に新しい臨海一貫製鉄所の必要性を強調し、その実現に力を注がれたことは特筆に値するものであります。

その後、科学技術行政機関の設立に尽力され、昭和31年5月、科学技術庁が発足するや同庁に転じ、科学技術の進展こそが資源に乏しい我が国が発展していくための唯一の道であるとして、科学技術の政策作りに奔走されました。さらに、日本貿易振興会シンガポール事務所長時代は東南アジア各国との経済技術交流の重要性を認識され、様々な協力案件を手がけられました。

氏は、日本鉄鋼協会専務理事として19年の長きにわたり協会の活動を率先指導されました。特に、各企業の協力による鉄鋼技術の発展の必要性を痛感され、共同研究会という世界に例を見ない企業間の壁を越えた技術連携組織の構築・運営に尽力されました。また、鉄鋼技術国際会議の主催、ドイツ、中国、ソ連等海外との二国間シンポジウムの開催、諸外国への調査団の派遣など国際交流にも多大な貢献をされました。

日本科学技術情報センターに転じられてからは、科学技術情報のネットワークの構築に力を尽くされました。

以上の業績により、昭和50年には本会の製鉄功労賞を受賞され、昭和59年には名誉会員に推薦されました。また、昭和56年には藍綬褒章、昭和63年には勲三等旭日章が授与されています。さらに、海外交流への多大な貢献の証として、氏はドイツ鉄鋼協会、汎ラテンアメリカ鉄鋼協会、英国金属学会、米国金属学会の名誉会員に推挙されたほか、昭和55年にはフランス政府からレジョン・ドヌール勲章を受章しています。

氏が鉄鋼科学技術と本会の発展に尽くされた多大なご業績を偲び、会員一同、心からの哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成18年12月

日本鉄鋼協会　会長　浅井　滋生